

2021年度  
第4回 理事会議事録

2021年 11月 16日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

# 2021年度 第4回理事会議事録

1. 日 時 2021年 11月 16日 (火) 11:50~14:00
2. 場 所 鉄鋼会館701号室
3. 構 成 員 16名
4. 出席構成員 15名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
  - (1) 開会の辞
  - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
  - (3) 会長挨拶
  - (4) 前回理事会議事録の確認
  - (5) 審議事項  
第1号議案 国際溶接学会 2022年次大会・国際会議への協賛  
及び国際ウェルディングショーへの出展について
  - (6) 報告事項
    - 1) 新型コロナウイルス感染予防対策について  
(全構協版 ワクチン&検査パッケージ)
    - 2) 青年部ブロック長との意見交換会開催要領について
    - 3) 九州支部からの依頼について  
(鉄骨製作管理技術者教本等の漢字ルビ添書き)
    - 4) 鉄骨技術者教育センター管轄資格の受験資格変更について  
(鉄骨製作管理技術者 その他)
    - 5) 委員会等活動状況報告
      - ①運営委員会
      - ②技術委員会
      - ③事業継承対策WG
      - ④リモート製品検査検討WG
      - ⑤鉄骨材料入手難対策WG
    - 6) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告
    - 7) その他
  - (7) その他の定例報告事項
    - 1) 構成員登録状況
    - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
    - 3) 主要会議日程
    - 4) 支部報告
  - (8) その他
  - (9) 閉会の辞

## 6. 議事要旨

### (1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より、新型コロナウイルス感染防止策の一環で実施しているワクチン接種済証の事前提出に協力いただいたことに謝意が述べられるとともに、開会する旨が告げられた。

### (2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、理事総数 16 名のうち井原理事が欠席されているため出席理事数は 15 名であり、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされている旨、報告された。

### (3) 会長挨拶

米森会長より「1 年以上対面開催できなかったが、本日、久しぶりに皆さんの顔を直接見ながら話をすることができてうれしく思っています。この間、様々なことがあったが、最近では、鋼材をはじめとして材料価格の高騰と納期の長期化が重大な問題になっている。この問題に関しては、今後の見通し等について材料メーカーに対するヒアリングを既に実施済で、その結果、短期間では収束しない問題であることを認識した。今後は、建築関連業界への適切な行政指導と公共物件の積算単価の適正な設定について行政機関に要請することを予定している。中央省庁に対しては東京で行うが、自治体等に対しては各支部・県において行っていただきたい。本日は、本理事会後には青年部会との意見交換会もあるが、その前に、じっくりご議論いただきたい。」との挨拶があった。

### (4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

### (5) 審議事項

#### 1) 国際溶接学会 2022 年次大会・国際会議への協賛

##### 及び国際ウェルディングショーへの出展について

2022 年 7 月に開催される「国際溶接学会 2022 年次大会・国際会議」及び「国際ウェルディングショー」の概要、これらの開催に関する（一社）日本溶接協会からの要請事項、本要請に対する当協会の対応案（・「国際溶接学会 2022 年次大会・国際会議」に対する協賛金<10 万円>の拠出。・「国際ウェルディングショー」への出展。）について、議案書[理 21-4-議 1]（p2～16）にそって小貫専務理事から説明された。

本案に対する質問、意見等はなく原案通り承認された。

### (6) 報告事項

#### 1) 新型コロナウイルス感染予防対策について

##### （全構協版 ワクチン&検査パッケージ）

新型コロナウイルス感染防止の一環で、当協会が主催する会議・行事等への出席者に対して求める感染防止策案〔a) ワクチン接種済証明(写)の提出・提示、b) PC

R検査陰性証明(写)の提・提示出 等]について、議案書[理 21-4-報 1](p18)にそ  
って小貫専務理事から説明があり、了承された。

## 2) 青年部ブロック長との意見交換会開催要領について

本理事会後引続き開催される青年部ブロック長との意見交換会に関し、議事次  
第、出席予定者等が議案書[理 21-4-報 2](p19-20)にそって小貫専務理事が説明  
し、了承された。

## 3) 九州支部からの依頼について

(鉄骨製作管理技術者教本等の漢字ルビ添書き)

各支部で開催される「鉄骨製作管理技術者学科試験の受験対策講習会」等で利用  
されている教本等の漢字に、外国人受講者のためにルビを付すことを求める要望  
書が九州支部より会長宛に提出されたことが、議案書[理 21-4-報 3](p19-20)に  
より事務局より報告された。同教本は、鉄骨技術者教育センターが編集・発刊して  
いるものであることから、同センターの判断に委ねることとする旨小貫専務理事  
から報告され、了承された。

## 4) 鉄骨技術者教育センター管轄資格の受験資格変更について

(鉄骨製作管理技術者 その他)

鉄骨技術者教育センターが資格認定を行っている鉄骨製作管理技術者資格等  
3資格の受験資格を改定したことが、議案書[理 21-4-報 4](p22-27)にそって辰  
巳理事(教育センター専務理事)及び千田技術部担当部長(同センター事務局長)よ  
り説明があり、全構協正会員及び構成員企業へ周知するよう要請された。

改定点の要点は以下のとおり。

- ・必要実務経験年数を満たす前の受験が可能になった。  
(ただし、合格した場合でも登録申請は必要実務経験年数を満たした後とする。)
- ・必要実務経験年数が学歴に応じて短縮された。

## 5) 委員会等活動状況報告

### ①運営委員会

本年 7～8 月に実施した「構成員企業の業績等アンケート調査」の集計結果の  
要点が、議案書[理 21-4-報 5①](別紙)により中村総務部担当部長より報告さ  
れた。また、回答率が全国平均で約 48%と低く、県により 10%台から 100%ま  
で大きなばらつきがあることなどをふまえて、本委員会委員長・大竹理事より  
「関東支部においても支部内のものを含めて、アンケートへは積極的に回答す  
るよう呼び掛けてきたにもかかわらず、本アンケートについても全国平均以下  
の回答率になってしまい反省しているところであるが、各支部においても回答  
率を上げるための取組みをお願いしたい。」との発言があった。

### ②技術委員会

同委員会安全衛生WGで検討中の、溶接ヒューム規制に係る防護マスクのフ  
ィットテストへの対応に関し、「定量的テスト」と「定性的テスト」の比較表[案]  
が議案書[理 21-4-報 5②](p32)により提示され、各々の実施方法、所要時間、判  
定方法、費用等の概略が新村技術部長より説明された。また、本比較表の完成版

とともに、これらが視覚的に理解できるよう写真、解説図等で詳細に説明したパンフレットを後日各県組合に送付することが報告された。

### ③事業継承対策WG

成果品のまとめ方について議論しているところであるが、様々な意見が出ており、次回WGで意見集約の上方向性を定める予定であることが平井総務部長より口頭で報告された。

### ④リモート製品検査検討WG

同WGの成果品となる「リモート製品検査受検マニュアル」を作成中であることが議案書[理 21-4-報 5④](p33-36)により新村技術部長から報告された。

### ⑤鉄骨材料入手難対策WG

第3回理事会(9月28日開催)において設置することが承認され、メンバー等具体的内容は米森会長に一任されていた新WGについて、メンバーは野田監事、高橋監事が選任され、第1回WGを10月13日に開催したことが事務局より報告された。また、本WGでの協議内容とその後の取組みの進捗状況に関して、WGの名称、目的・役割、具体的活動内容(説明・陳情の実施主体、相手先、説明内容等)が、議案書[理 21-4-報 5⑤](p37-39)にそって報告された。

また、地方整備局、地方自治体等に対しては、各支部及び各県において同様の活動を行うよう米森会長より指示された。

## 6) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

法人法第91条第2項及び定款第24条第6項に基づく、代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について、議案書[理 21-4-報 6]により小貫専務理事から報告された。

## 7) その他(共同積算システムの改修実施について)

現在多くの県で活用されている共同積算システム[共積システム]は、ウェブサイト閲覧ソフトであるインターネットエクスプローラーを利用して運用しているが、本ソフトのサービス終了にともない共積システムが利用不能となるため、代替閲覧ソフト(エッジ、グーグルクロム)に対応できるよう改修する必要がある、また、複数の県から早めの改修を行うよう要請があることから、以下の内容で改修を実施することが事務局より口頭で報告された。

- ・工期： 約2ヶ月
- ・費用： 75万～100万円
- ・実施時期： 2021年度中

## (7) その他の定例報告事項

### 1) 構成員登録状況

前回報告以降の新規登録3社、取消4社で、2021年11月8日時点の構成員登録数は2,209社であること等が、議案書[理 21-4-他 1](p42-46)により事務局から報告された。

## 2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2021年9月の鉄骨推計需要は約35.2万トン(前年同月比0.7%増)で、1月以降対前年比増が続いていることなどが議案書[理21-4-他2](p47)により事務局から報告された。

## 3) 主要会議日程

2021年度の主要会議日程について、主な変更点等が議案書[理21-4-他3](p48)により事務局から報告された。

- ・1月14日は、「理事会」、「全国理事長会」及び「全国理事長会出席者での懇親会」を実施するが、例年、賛助会員、関係団体等を招待して開催している「新年賀詞交歓会」は中止する。
- ・2月22日に予定されていた理事会は、1日早めて21日とし、開催地は沖縄・那覇市とする。

## 4) 支部報告

### 〔北海道〕

- ・10月21日に鉄骨部会役員会を開催し、鋼材価格高騰、需給ひっ迫の背景、今後の見通し等について日本製鉄・札幌支店の担当者から説明を受けた。本説明を道内各支部で実施するよう希望が多かったことを受けて、順次実施しているところである。
- ・10月29日にJSCAとの意見交換会を開催し、鋼材価格高騰、需給ひっ迫の状況について説明した。その際、この状況を強調し過ぎると鉄骨造が敬遠される懸念があるということを感じた。適宜適切なタイミングで相談していただければ適正な対応をとることができることを併せて伝えることが肝要である。
- ・手持工事量は、Hグレードファブが2~9ヶ月、Mが2~5ヶ月、R・Jが1~3ヶ月。稼働率は90~100%を維持、見積物件数は「普通」と「やや少ない」が半々程度である。
- ・鋼材等の納期について、取扱い商社により大きなバラツキがあるので、ゼネコンが混乱しないよう対策が必要だと感じている。

### 〔東北〕

- ・10月28日に支部会を開催した。その際、日本製鉄・東北支店長から鋼材需給の現況と今後の見通し等について説明を受け、今問題になっている状況は構造的なもので長期化を覚悟する必要があると感じた。その後、米森会長と小貫専務理事に加わっていただき意見交換を行った。
- ・手持工事量は、Hグレードが6~12ヶ月、Mが2~8ヶ月、R・Jが1~4ヶ月。稼働率はほぼ100%を維持している。見積物件数は、やや増えてきたが大型物件中心で中小物件が少ないためR・Jファブが仕事の確保に苦労している。
- ・現在の最大の困りごとは、材料納期の長期化がネックで受注できないことである。先行発注で対応しようとしても、図面承認遅れのためにそれもできず、苦慮しているファブが多い。

## 〔関東〕

- ・10月21日に支部会をWEBで開催、27日に運営委員会を対面で開催した。12月7日には対面の支部会を高崎で開催する予定である。
- ・一部の県から回復しているとの報告があるが、総じて横ばい状態が続いている。手持工事量、稼働率、見積物件数とも、県により、またファブによりバラツキがあり、二極化がみられる。
- ・鋼材価格の高騰と納期の長期化が最大の問題となっており、その中でも、R・Jファブの主たる取引先になっている地場ゼネコンの中に状況を理解していないものが多く、各県・地域での周知活動が必要になっている。

## 〔北陸〕

- ・総じて活動は停滞気味であるが、各県で賛助会員との交流を行っている。
- ・手持工事量は、Hグレードが12ヶ月、Mが6ヶ月、R・Jが2～4ヶ月程度である。見積物件数は普通程度であるがR・Jファブの主たる対象である中小物件が少ないため、年末頃に仕事が枯渇するファブ出てくるかもしれない。
- ・R・Jファブは一般的に付合いの範囲が限られているので入手できる情報が少ない傾向があり、このことが営業的にも不利になっているように感じるので、彼らに対する情報提供を積極的に行うよう心掛けたいと思っている。

## 〔中部〕

- ・各県とも9、10月の理事会は開催した。
- ・手持工事量は、Hグレードが3～15ヶ月、Mが1～10ヶ月、R・Jが1～6ヶ月程度、稼働率は50～130%で、二極化が進んでいる。
- ・見積物件数は普通程度であるが、中小物件が少ないためR・Jが苦慮している。
- ・材料納期の長期化が受注のネックになっており、特にR・Jへの影響が大きい。鋼材価格の高騰についても鉄骨価格への転嫁が進んでいないため、加工費、利益を圧迫している。

## 〔近畿〕

- ・11月4日に支部会を開催した。その際、9月3日付の「材料入手難に関する歎願書」への三役の迅速な対応に対して謝意が表明された。
- ・各県の理事会開催状況は議案書 p60 に記載のとおりで、支部行事としては製作管理技術者の講習会及び試験を行った。
- ・手持工事量は、Hグレードが6～12ヶ月、Mが2～8ヶ月、R・Jが1～3ヶ月程度、稼働率は一部で50～60%もあるが多くは80～100%である。
- ・材料の価格高騰、入手難など環境変化が大きい中であっては緊密な情報交換と機敏な対応が重要になると考えられるため支部会の開催回数を増やすことを検討している。
- ・一部の商社・特約店で材料とセットでゼネコンから安値で受注しファブに加工を委託する動きがみられるため、12月に予定している鉄構交流会で対応について協議したいと考えている。

## 〔中国〕

- ・10月13日に対面で支部会と共済推進会議を開催した。次回は11月25日の開催を予定しており、併せて米森会長と小貫専務理事との意見交換を行う。
- ・手持工事量は、Hグレードが半年～1年、Mが1～6ヶ月で、ファブ間格差が拡大している。中小物件が特に少ないため、大規模物件を受注したファブの仕事を数社で分け合って加工するなどの協力が重要になっている。
- ・材料の価格高騰、納期の長期化は他支部からの報告と同様に大きな問題になっている。

## 〔九州〕

- ・10月12日に対面・オンライン併用で支部会を開催した。その際、予てより検討している支部技術委員会の設立に向けて規約作成その他一連の作業を担うWGを上げた。
- ・鉄骨製作管理技術者学科講習会を10月5日～7日に、NDIレベル1講習会を10月17日～21日に開催した。
- ・稼働率は、地域により、またファブにより差が広がっている。見積物件数は少なめで推移している。
- ・価格は厳しい状況が続いており、鋼材価格の高騰が鉄骨価格に転嫁できずに苦慮している。また、納期の長期化がネックになって受注できないケース、受注しても材料の納期遅延のために工場稼働が止まるケースなどもみられる。
- ・この先1～2年は大型物件が集中して発注される見通しで、台湾の半導体メーカーの工場新設も含まれており、材料確保のための熾烈な競争を懸念している。

## (8) その他（次期会長の選任方法について）

来年度に予定されている役員改選にともなう次期会長の選任方法に関し、小貫専務理事より発言があった。発言の要点は以下のとおり。

○米森会長は予てから今期限りでの退任を表明されており、後任会長の選任方法について報告します。

○最初に、前回(2020年度)の会長選任時の経緯について、当時の理事でない方もいらっしやるので確認させていただきます。

- ・2019年度第5回理事会(2019年9月開催)において、次期会長の選考方法(当年度の理事会の推薦案の決定方法)について、次回理事会で協議していただくので、各理事の意見を整理のうえ報告いただきたい旨要請した。
- ・2019年度第6回理事会(2019年11月開催)において、上記要請に対する各理事からの意見表明があり、多数意見である「三役に一任する」ことが確認された。
- ・上記をふまえて同年12月13日開催の三役会で協議の結果、会長としての実力、残された課題が多いことなどを勘案し、三役こそって米森現会長に次期会長をお願いするという結論になった。
- ・上記要請に対して、2020年1月17日開催の三役会において米森会長より、体力・気力ともまだ充実しており、引続き仕上げるべき課題も多く、また、三役の皆さんからこそって要請を受けたことから、会長職を引き受けることとした旨、回答をいただいた。
- ・2019年度第7回理事会(2020年1月開催)において2019年12月13日開催の



三役会以降の経緯を報告し、これに続いて米森会長より「・12月13日開催の三役会において三役全員から次期会長を引き受けるよう要請された。・長年会長職を続けていることに対していろいろな意見も聞くので、相談すべき方のご意見も伺い熟慮した結果、体力・気力も充実していることから、お引き受けする決意を固めた。・会長職は重責をともない体力・気力も要するが、まだ解決しなければならない課題も多いのでそれらを仕上げたい。・三役人事、委員長人事等については、これまで同様 任せていただきたい。・また、2年後の次々期会長の人選に際しては、しこりを残さないようにしたいので、私に推薦させていただくことを条件にお受けしたいと考えているので協力をお願いしたい。」との発言があり、本発言を全理事が了承した。

○以上の経緯で2020年度の役員改選において米森会長が再任されました。

○2022年度の役員改選においては、2019年度第7回理事会で確認したとおり、次期会長については米森会長に推薦していただくことといたく思いますので、この場で確認いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか？

上記の小貫専務理事の発言に対する、意見、質問、異論等はなく了承された。

#### (9) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

## 出席者名簿

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>
会 長	米 森 昭 夫
副 会 長	永 井 毅
〃	大 島 嗣 雄
〃	山 本 泰 徳
専務理事	小 貫 武
常務理事	大 橋 利 勝
理 事	佐 藤 正 記
〃	渡 辺 勝
〃	大 竹 良 明
〃	寺 田 健 信
〃	多和田 桂 太郎
〃	出 雲 津 芳
〃	福 田 秀 章
〃	岩 永 洋 尚
〃	辰 巳 功
監 事	村 上 眞 樹
〃	野 田 博 文
〃	高 橋 伸 和

理事総数 16名 うち出席者 15名 [欠席：1名<井原理事>]  
監事総数 3名 うち出席者 3名